

船舶事故等調査報告書

平成22年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第26号	
事故等種類	浸水	
発生日時	不明（平成21年12月26日 04時00分ごろ機関室への浸水を発見した。）	
発生場所	不明（宮崎県日向市 細島灯台から真方位098° 3.4海里付近（概位北緯32° 25.0′ 東経131° 45.0′）で浸水を発見した。）	
事故等調査の経過	平成22年2月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 興陽丸、199トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 133690、豊田海運有限会社</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、五級海技士（航海）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 右舷船尾船底に直径約5cmの破口</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか3人が乗り組み、日向市東方沖を約10ノットの対地速力で自動操舵により北東進中、平成21年12月26日04時00分ごろ、ビルジ警報が鳴り、機関室を調査したところ、浸水していることを発見した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1.5m</p>	
その他の事項	<p>本船は、鹿児島港出港時、船尾船底付近に強い衝撃を受けたが、その後の航行では、船体に衝撃を受けなかった。</p> <p>本船は、鹿児島港出港時、スクラップ約630トンを積み、喫水が船首約3.0m、船尾約3.7mであった。</p> <p>鹿児島港を出港した岸壁付近の水深は、約7mであった。</p> <p>本船は、鹿児島港出港時に、強い衝撃を受けた際、浸水等の異常はなかった。また、事故発生4時間前に、機関室の見回りをした際も浸水等の異常はなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、日向市東方沖を航行中、船底に生じた破口から機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、鹿児島港出港時、浮遊物に接触し、船底に破口が生じた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が鹿児島港出港時、浮遊物に接触した際、船底に破口が生じたため、日向市東方沖を航行中、機関室に浸水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	